

県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑増加 ↓減少 →横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	→ 0	0	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	→ 25	25	ヘルパンギーナ	↑ 43	34
咽頭結膜熱	↓ 5	6	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 78	62
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↓ 27	35	急性出血性結膜炎	→ 0	0
感染性胃腸炎	↑ 193	146	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 8	29
水痘	↑ 28	24	細菌性髄膜炎	→ 0	0
手足口病	↓ 91	116	無菌性髄膜炎	↑ 2	0
伝染性紅斑(りんご病)	↑ 8	3	マイコプラズマ肺炎	↑ 3	2
突発性発しん	↑ 48	43	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- 感染性胃腸炎
- 手足口病
- 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

- 感染性胃腸炎は、報告数 193 件(前週報告数 146 件)と増加。地区別では、人吉、山鹿、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 40 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 手足口病は、報告数 91 件(前週報告数 116 件)と減少。地区別では、宇城、水俣、天草に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の 24 件を最多に、10～14 歳以下からの報告である。
- 流行性耳下腺炎は、報告数 78 件(前週報告数 62 件)と増加。地区別では、有明、菊池、水俣に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の 17 件を最多に、10～14 歳以下からの報告である。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆


保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	0	10	2	16	45	11	21	4	15	0	11	34		8		2	3	
山鹿保健所	0	0	0	0	19	0	3	0	2	0	1	0	*	*				
菊池保健所	0	9	1	4	10	1	10	0	6	0	7	10						
阿蘇保健所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	*	*				
御船保健所	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	0	1	0	1	12	2	9	0	6	0	0	6						
水俣保健所	0	0	0	0	6	0	8	0	1	0	0	5	*	*				
人吉保健所	0	0	0	0	36	4	6	1	4	0	3	2	*	*				
有明保健所	0	0	0	0	35	6	5	0	7	0	1	16						
宇城保健所	0	2	0	3	22	3	13	0	3	0	4	1						
天草保健所	0	3	2	3	4	1	16	3	4	0	16	3						
計	0	25	5	27	193	28	91	8	48	0	43	78	0	8	0	2	3	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	25	9	7	5	3	1																
咽頭結膜熱	5			2		1																1
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	27			1	1		3	8	6	1	3	1	3									
感染性胃腸炎	193	2	18	40	18	9	11	11	15	12	7	10	21	7	12							
水痘	28		2	4	7	8	2	4					1									
手足口病	91	1	8	24	18	13	11	3	6	1	1	2	3									
伝染性紅斑	8			1	1		3	1	1				1									
突発性発しん	48		26	21		1																
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	43		6	16	7	5	1	6	1				1									
流行性耳下腺炎	78			9	15	7	8	17	6	9	3	2	2									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	0																					
流行性角結膜炎	8												1		1	2	2	2				
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	2			1	1																	
マイコプラズマ肺炎	3			2	1																	
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生
又は継続しつつある地域

- 手足口病：菊池・八代・人吉
宇城・天草
- ヘルパンギーナ：天草



マイコプラズマ肺炎

マイコプラズマ肺炎が、例年と比べ全国的に多く報告されています。熊本県の今週の基幹定点医療機関(15機関)からの報告数は3件で、明らかな増加はみられませんが、基幹定点以外の医療機関(小児科定点医療機関等)からもマイコプラズマ肺炎が複数報告されています。マイコプラズマ肺炎は、幼児、学童、青年を中心に報告が多く、また、晩秋から早春にかけて報告数が多くなる傾向があり、これからの季節に注意が必要です。

- 感染経路：マイコプラズマは細菌の一種で、感染患者からのくしゃみや鼻水による飛沫感染、接触感染により感染します。
- 発生時期：発生時期は、例年晩秋から早春にかけて多く報告されています。
- 症状：感染すると、2～3週間の潜伏期を経て、発熱、全身倦怠、頭痛などの症状が見られ、その後咳が始まります。咳は、徐々に強くなり、解熱後も長く続きます(3～4週間程)。また、マイコプラズマ肺炎は、時に重症化することがあります。
- 予防：マイコプラズマ肺炎を予防するには、手洗い、うがいなどの一般的な感染症予防が重要です。また、患者との濃厚な接触を避けることも有効な予防法の一つです。